

第485号 2月号 2025.2.20

岐阜県

商店街だより



発行元：岐阜県商店街振興組合連合会 岐阜市藪田南 5-14-53 TEL：058-277-1107

地域住民を支える理想のまちづくりを 高山本町三丁目商店街 商業まちづくり協定

◆主催：高山本町三丁目商店街振興組合

高山本町三丁目商店街振興組合は、「商業まちづくり協定」を策定し、昨年末から運用をスタートしました。当協定について、牛丸圭五理事長と当協定の策定に携わった下畑朋子さんにお話を伺いました。



▲牛丸圭五理事長と下畑朋子さん

——当協定の具体的な内容や背景について教えてください。

この協定は、当商店街の環境や景観を維持するため、出店事業者様や住まわれている住民の方々、店舗のオーナーや不動産業者の方々に、当商店街が定めるルールなどを改めてお願いする趣旨のものです。もちろんこれまでもルールはありましたが、明文化されたものが無かったため、改めて整備して文章としてまとめました。

平成30年に、三丁目商店街と観光客に人気の宮川朝市を結ぶ橋（行神橋）を作る構想が上がった時に、想定される様々な問題に事前に対処していけるよう、協定を作り始めたというい

きさつがあります。



▲三丁目商店街と宮川朝市を結ぶ行神橋

——具体的にはどのような問題点が想定されますか。

観光客の流入が増えることによって、商店街に放置されるゴミの増加が考えられます。また、観光客の目に留まりやすくするために、商店街の景観を損なうような、あまりにも派手な看板



▲清掃の行き届いた三丁目商店街

を設置したり、歩道などの公共スペースに立看板を設置したりすることなどが想定されます。

——不動産業者さんにも働きかけを行うとお聞きしました。

高山はありがたいことに、他地域の商店街で起きている空き店舗問題などは少なく、入居率が高いのですが、観光客をターゲットとした地域外からの事業者が増えてきている実情があります。そういった外からの事業者さんにも、当商店街の最低限のルールを守っていただくために、物件探しの段階で不動産業者さんに商店街のルールを事前に伝えていただき、ご了承いただいたうえで入居して頂くという狙いがあります。



▲三丁目にあるインバウンド観光客向けのカフェ

また、商店街の組合への入会を促すことで、新たに入ってきた事業者さんも、一会員として一緒に街づくりを進めていきたいという思いもあります。

——既に入居されている域外事業者さんにはど

のような取り組みをされていますか。

協定ができたことに関して、一件一件丁寧に説明して回っています。これまでは口頭でのみのお声がけだったのですが、書面を渡して伝えられるのでやり易くなりました。組合費をご負担に感じられる事業者さんもありますが、街灯照明をLED化するなど、費用を削減することで入会しやすい会費に見直していく計画です。

——インバウンドなど、増加している観光客に関してはどうにお考えですか。

観光客が増えていることに関しては、商店街メンバーとしてとてもありがたく思っていますが、収益があがれば何でも良いと思っているわけではありません。実際、商店街に住んでいる方も沢山いらっしゃいますし、私たちが生まれ育った愛する故郷ですので、景観や清潔感など守っていききたいものも沢山あります。

——理想とする商店街の姿を教えてください。

商店街は生活感が必要だと思います。高山は幸い大型のショッピングモールなどはまだ進出していないため、商店街が住民の生活をしっかり支えていますし、大人から子供までの憩いの場としても機能していると思います。観光客メインの事業ばかりになってしまい、そこに住む住民がないがしろになってしまうような状況は避けたいと思っています。三丁目商店街のコンセプトは、「こだわりと触れ合えるまち、時の経過を忘れるまち」です。こだわりを持った魅力ある店舗が地域住民を支え、そこで子供を育てていける、そんな商店街を目指しています。

西宮神社十日えびす大祭 中津川のお正月恒例の人気行事

◆主催：西宮神社・中山道中津川宿六斎市実行委員会

2025年1月10日(金)に、中津川駅前一带で「十日えびす大祭」が開催されました。今年で第130回目となるかなり歴史のある、中津川のお正月恒例のお祭りです。早朝から夕方頃

まで多くの人で賑わいました。

■ 中津川福男選り神事を開催



▲ゴールである西宮神社前の様子

今年は、「中津川福男選り神事」が開催されました。スタート時間はなんと朝の4時。100名を超える申込者の中から当選した69名の参加者が、所定のコースを走りました。長い坂もある厳しいコースに苦戦する参加者を、沿道でご家族や友人・商店街の方などが声援を送ります。



▲一番福・二番福・三番福に選ばれた参加者

一番福には恵那市の鈴木さん、二番福には大阪府の為我井さん、三番福には中津川市の西尾さんが選ばれ、認定書を授与されました。一番福の鈴木さんは、「記念すべき第一回を地元の人間がとれてホッとしています。一番福はまわりに福を配るという話を聞きましたので、みんなに振り分けていきたい」と語られていました。

■ 絵馬のスタンプラリーを開催

朝の9時からミニ六斎市が開催され、駅前一带に多数のテントやキッチンカーなどが出店

されました。たこ焼きやりんご飴など、屋台おなじみの食べ物を提供するテントに加え、ご当地グルメの五平餅や地元で愛される塩焼きそばのテントなど、数々のお店が出店されていました。

また、商店街の各所に設置された七福神を巡り、絵馬にスタンプを押していくスタンプラリーも開催されました。絵馬は1個100円で、各ポイントで購入可能です。子供から大人まで多くの人に参加をされていました。絵馬のスタンプをすべて埋めると、西宮神社の境内でガラガラポンを引くことができます。



▲神社の境内でくじ引き

くじは当たりとはずれの2種類で、はずれはお煎餅、当たりはお菓子の詰め合わせです。当たりの福袋をもらい、とても嬉しそうにしている子供たちが印象的でした。

■ 中津商業高校の生徒が積極参加

このお祭りでは、地元中津商業高校の生徒さんが積極的に参加している様子が見られました。冬休みも終わった平日の昼間ではありましたが、授業の一環として地元の行事を盛り上げるため、毎年積極的に参加されているそうです。

絵馬スタンプラリーの各ポイントでは、当高校の生徒さん数名が立ち、絵馬の販売やスタンプラリーの説明を、参加者の方にされていました。また、ゴミ袋を持ち会場のゴミを拾って歩く生徒さんや、神社の境内で参拝者に甘酒を振る舞う生徒さんなども見られました。駅前通りに設置されたテントでは、学校の課外授業で生産した、菊芋のお茶などを販売する生徒さんなど



▲絵馬にスタンプを押す中津商業高校のスタッフ

も見られました。収益が高校に渡るわけではないそうですが、商業高校ということもあり、商品

開発や商品販売の経験に大いに役立っているとのこと。

中津川商工会議所の糸井川さんにお話を伺いました。

「中津商業高校の生徒さんは、以前から当行事に積極的に参加していただいております。若い人が運営に関わっていただくことで、行事全体に活気が出てきますし、とても助かっています。このような行事は、普段商店街を利用しない方に、商店街の魅力を伝えるいい機会となっています。こういった取り組みを通じて、少しでも日常の商店街利用にもつなげていくことができればと思います。」

各務原の誠実な生花店 フラワーショップ花豊

◆蘇原中央通商店街振興組合

「フラワーショップ花豊」は、各務原の蘇原中央通商店街（通称：ろっけん通り）に位置する生花店です。今年で創業76周年目になる各務原の歴史あるお花屋さんです。2代目である店主の平井正晴さんにお話を伺いました。

した。以前は近くにイトーヨーカドー、ターゲットがあり、両店に出店していましたので、従業員を10名ほど抱えて事業をしている時期がありましたが、両スーパー撤退後は、現店舗のみで地域のお客様に向けてお花を販売しています。

——生花業界は現在どのような状況でしょうか。

花の需要はコロナ禍は落ちていましたが、最近はまた伸びてきているように思います。以前より若い人が来店するようになりました。卒業式や入学式に友達に贈ったりする需要が高まっ



▲各務原のフラワーショップ花豊

——貴店の歴史を教えてください。

創業は1950年ですので、今年で76年目になります。私の父がこの地で創業して、私は2代目になります。創業当時は何もない時期だったので、地域の方のご要望に応えながら、花だけでなく雑貨などなんでも取り揃え販売していま



▲胡蝶蘭など様々な花が並ぶ店内

ていると思います。私も少しびっくりしているくらいです。一方、冠婚葬祭需要はかなり減ってしまいました。結婚式は適齢期の人口減少もありますが、式を挙げない事があるようです。葬儀も家族葬が多くなり、お花も葬儀会社が手配し、花店の持込ができない現状です。

——貴店で人気のある商品は何ですか？

バラは常に人気がありますね。安いものから高いものまで様々ですが、コンスタントに売れています。高価なお花ですが、胡蝶蘭も人気があります。造花も販売していますが、石鹼でできたシャボンフラワーは、見た目も美しくほのかに石鹼の香りがして若い方を中心に喜ばれています。



▲石鹼で作られたシャボンフラワー

——事業を進めていくうえで心がけていることはありますか。

接客は常に「誠実さ」を大切に、お客様一人一人に寄り添って丁寧に接客しています。また、お客様が求める花を鮮度の高い状態で提供することも心がけています。岐阜市には、岐阜県内唯一の生花卸売市場があり、週3回～4回仕入に出向き、こまめに仕入れる様にしています。花の寿命は短いですが、まめに市場に通って仕入れることで、お客様も花が長持ちして喜びますし、廃棄損も少なくなります。

また当店は、朝の8時から夜の8時までお店を開けています。近年は花屋が少なくなっている上、早朝や夜間営業している店舗が少ないため、この営業時間はとても喜ばれています。各務原は自衛隊基地があるため、退官する方に向けたお花を求めて、早朝に来店される自衛隊の方もいらっしゃいます。



▲店主の平井正晴さん

——今後の目標を教えてください。

私も妻も高齢となり、引退も近いと思っているため、事業を拡大するような目標は特にありませんが、要請があれば、地元の園芸教室やボランティアなどで花の生け方を教えたりしたいですね。若い世代に花の良さや扱い方を教えることで、生花の販売に興味を持つ人が出てきてくれれば、この業界も商店街も活気を維持できると思いますので、体が動くうちは自分にできることをやっていきたいです。

フラワーショップ花豊

各務原市蘇原柿沢町3-2-3

TEL: 058-382-0570

営業時間: 8:00～20:00

定休日: 木曜日(予約可・行事営業)

【取材・記事 中小企業診断士 足立信秀】

◆ 独立行政法人中小企業基盤整備機構 よろず支援拠点全国本部

中小機構は、「よろず支援拠点全国本部」とし

て、47都道府県に設置されている中小企業・

小規模事業者の方々のさまざまな課題にお応えする「よろず支援拠点」をサポートしています。

※「よろず支援拠点」とは、国が全国に設置している無料の経営相談所です。

■対象者

中小企業・小規模事業者（創業予定者含む）、またはそれに類するNPO法人・一般社団法人・社会福祉法人など

■事業のポイント

1 よろず支援拠点のミッション

専門性の高い経営アドバイス

売上拡大や経営改善等の経営課題解決に向け、専門的で高度な提案を行います。

課題解決のための総合調整

他の中小企業支援機関と連携し、相談に応じた適切な機関の紹介、複数の機関による相互連携のコーディネート、それらによる地域全体として最高水準の支援を実現します。

中小企業支援機関に対する支援ノウハウの共有

経営課題の解決に必要な提案方法や支援事例等、よろず支援拠点に蓄積されたノウハウを他の機関に共有します。

■支援内容

「よろず支援拠点」では、中小企業・小規模事業者のあらゆる（よろず）経営相談に無料で対応しており、経営改革支援や経営改善支援のワンストップの窓口になっています。中小機構はその全国本部として、全国47拠点の支援能力向上に取り組んでいます。

1 経営革新支援

「売り上げを伸ばしたい」「販路を拡大したい」相談事業者の強みを発見、新商品のアイデアやパッケージの新デザインの提案など、新たな顧客獲得・売上拡大に向けた先進的な支援を行います。

2 経営改善支援

「毎月の資金繰りが厳しい」「採算の悪い事業をやめたい」

経営改善計画策定へのアドバイス、資金繰り改善や事業再生などに関する経営改善に向けて支援を行います。

3 ワンストップサービス

「経営上の悩みについて、どこに相談したら良いか分からない」

相談先に悩む中小企業・小規模事業者の窓口として、広く相談を受け付けています。相談内容に応じて、地域の支援機関・専門家と連携を取りながら支援を行います。

4 よろず支援拠点全国本部の役割

専門家と中小機構職員が「よろず支援拠点」を巡回し、地域の状況や課題を把握した上で、地域支援機関と連携した支援体制を構築するとともに、先駆的な支援モデルやノウハウを共有することにより、全国47拠点の支援能力向上に取り組んでいます。

詳しくは「よろず支援拠点全国本部ポータルサイト」をご覧ください。

■ご利用の流れ

- 1 まずは事業所が所在する都道府県のよろず支援拠点に連絡し、相談予約を行ってください。相談は何度でも無料です。
- 2 相談時間は1回1時間程度です。経営に関する課題、悩みについて、どんな小さなことでもご相談ください。窓口に来訪いただく対面形式のほか、電話、メール、テレビ会議システム等での相談にも対応しています。
- 3 経営課題に対応する専門人材（コーディネーター）が、対話を通じて課題分析を行い、解決策を提案します。
- 4 提案の実行に際しては、進捗と成果を継続的に確認しながら、フォローアップを行います。
- 5 実行の過程で新たな経営課題が見つかった場合にも、引き続き解決に向けて支援します。

岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。